

登山月報



月山山頂から鳥海山を望む



CHAMLANG 2015 報告	2
希望郷いわて国体リハーサル大会運営報告	5
第 92 回 Mountain World	6
新連載 「山の日」制定記念 —ふるさとの山に登ろう—	7
2016 U A A A 理事会報告	8
平成 28 年度国際委員総会及び第 55 回海外登山技術研究会報告 ..	9
平成 27 年度事業報告	10
J M A、寄贈図書、編集後記	13



CHAMLANG 2015 報告

■山 域

ネパール・ヒマラヤ、マカルー地域・チャムラン(7319m)

■チーム名

「CHAMLANG JAPAN EXPEDITION 2015」

■期 間

2015年 9月25日～11月17日

■メンバー

隊長：今井健司(33)、隊員：武田真敏(30)

■遠征の目的

チャムランはネパール・クーンブ地方のホンゲー・コーラにあり標高は7,319mである。チャムランは現地語で「羽ばたく大鳥」を意味し、山容はその名にふさわしく東西に長く伸び、巨大な北壁を携えている。この山がその魅力的な姿にもかかわらず近年ほとんど話題に上がることがないのは、人気エリアのメラ・ピーク周辺からさらに数日のキャラバンを必要とし、至近の村(カール)からも距離があるため、経費を抑えた短期間で済むような遠征が組みにくいからかもしれない。しかし、だからこそヒマラヤの奥深くで大きな山と対峙しているという、遠征登山の魅力を味わうことが可能ともいえる。

チャムランは1962年に南西壁から日本隊(北海道大学隊)によって初登頂され、西稜も同じく日本隊によって登られている。しかし、北壁はその美しい山容にもかかわらず81年にR・メスナー、D・スコットらによって7,010m峰まで登られただけに過ぎず、魅力的なラインがほぼ手つかずで残されてきた。近年ではイギリスのニック・ブロックらが北壁にトライしようと試みたが悪天によりほとんど取り付くこともできなかったようである。

この遠征の目標は今井による北壁の単独登攀である。主峰直下の標高差1,800mに及ぶ美しい氷雪壁のラインから主峰への登頂を狙いたい。またそれに先立ち、順応・下降路偵察を兼ねた西稜から主峰への隊としての登頂も目指す。同時に周辺に数多ある魅力的な山や壁の偵察も行いたいと思っている。

■チャムラン西稜アタック(10月17日～21日)

10月17日 チャムランBC→C1

朝7時、BC出発。ホンゲー・コーラを渡渉し、チャムラン下部を南下して西稜の取り付に向かう。このあた

り標高5,000m付近では雪はない。日が当たるまではかなり寒く、渡渉の際も飛び石が凍っていてヒヤッとすることもあった。ガラガラの丘を過ぎて西稜に取り付くとそこはガラガラの尾根で落石の危険が高い。標高5,300m付近から雪が出はじめ、次第に岩と雪のミックスになりやすい。

5,700mでは7mほどの垂壁が立ちはだかり、スタカットで登る。6,000mのジャンクション・ピークまでのリッジは景色もよく特に難所もなく快適。6,000mから進路を北に折り返し細いリッジ上になる。難しくはないが、両側の切り立った雪面はその先が崖になっているらしく落ちられないので慎重に歩を進める。17時に6,100mのジャンクション・ピークに到着しテント設営。



10m近い垂壁をザックを背負いダブルブーツで越えていく

10月18日 C1→C2

風もなく穏やかな夜だった。明け方の気温は-18度と比較的暖かい。次第に明るくなる空と遠くまで見渡せる空気と今日も天気は穏やかであろうと思われた。テント撤収したらジャンクション・ピークの少し先に狭いが平らな場所があったので荷物を軽くするために帰りの食料、ガスをデポしていく。予定では今日が西稜での核心になるであろうと予想していた。細いリッジ状が続きかなり立っているところが連続していくので最初からコンテで行くことにした。雪は相変わらず踝くらいまでの締まった雪質だが所々で膝くらいのところもあればダブルアックスで氷化した急なりッジをこなすこともある。時には氷塊となった雪庇状を大トラバースすること

もあったがスカスカのザラメ状でアイゼンを深く蹴り込んでも崩れてしまうような嫌らしい雪質でプロテクションも取れず緊張した。コンテとスタカットを切り替えながら進んでこの日のキャンプ地に着くまでロープは外さなかった。北側を見るとローツェ、東にはピーク41が見える。遙か見上げていたピーク41と目線が同じくらいになってきて自分たちの登ってきた高度を実感した。ローツェに隠れてエベレストの頭も少し見えるらしいがはっきりとはわからない。ローツェにはいつも山頂から東に長い雲が伸びていてあちは風が強いのだろうなと思えた。

今日の予定では6,700mのプラトー付近がキャンプ地予定。下からの目視ではわからなかったが6,500m付近で適地になりそうなところを発見。6,700mのプラトーで風に晒されるリスクと照らし合わせて今日はこの場所をC2にした。この時点でかなり息が苦しくなっていて何をすることも息が切れ、整地してテントの中で水を作り出すのも一苦労だった。



山頂までの急峻な登り

C1～C2間は氷とシュガースノー、ザラメ状が多く見た目以上に悪かった。

10月19日 停滞(レスト)

夜中は地獄の晩でほとんど眠れなかった。私たちがテントを張った場所は風の通り道になっていて夜中ずっとテントを揺らしていた。さらに悪いのは吹き溜まりに張ってしまったらしい。テント設営時にはこんな吹き溜まりになるとは想像していなかった。日本の山の感覚が通用しなくて少し驚いたが、やることは変わらない。ダブルブーツのインナーのまま外に出てせせと除雪。テントはすでに1/3程度埋まってきていてこのままではポールが折れそうな状況だった。

テントの近くにぽっかり空いている大きな氷の裂け目に除雪した雪をガンガン捨てていくが、高所での影響ですぐに息が上がり効率が上がらない。時には座って足

で蹴るように雪を落としていくが下手をすれば自分が滑落してしまう。真夜中で吹雪の中、ヘッドライトの光に横殴りの雪が輝く。動きすぎてついに気持ち悪さを感じるくらいまで高所の影響が出てきた。テントに入らずすぐに横にならず、しばらく座って深呼吸してお湯を飲む。場所を変えようという考えもあったが視界も悪いし下手に動くには危険と判断。昼間と状況が全く変わっているため近くに安全地帯があるかも不明だった。2人で交代して除雪しながら朝が来るのを待った。少し明るくなってきて辺りを少し探索すると50mくらい下がった辺りに平らな場所を見つけそっちに避難した。この場所も風は少し当たるが吹き溜まらないだけ10倍快適だった。この日はレストという意見で2人とも一致し、午前中はテントで寝ていた。昼になって今日中に6,700mのプラトーまでキャンプを上げるか上げないかで少し意見が分かれたが、結局この日はこの場に停滞を決め込んだ。

10月20日 C2～山頂

相変わらず風は強かったが、アタック決行。巨大なセラックの下をトラバースして登るプラトー周辺はやはり全体が吹き溜まりポイントで腿くらいのラッセルになることもあった。日本では難なくできるはずのラッセルも息が切れ数歩ずつしか進めない。その先はひたすら雪渓状を詰めていく。両手のバイルとキックステップを延々と繰り返すが息がすぐに上がる。体調は良好のだが息だけが苦しい。傾斜は長次郎雪渓右股の最後の上部くらいなのでロープは出さず各々マイペースで、自分の体と向き合いながら詰めていった。どんなに深呼吸をしながら登っても足が止まる。頑張っても30歩登ったら10秒立ち止まってレストというマイルールが出来上がっていった。今井さんもさすがに大変な様子でペースが上がっていない。その「30歩」を繰り返し、いよいよ山頂が近くなってきた。今井さんのペースが上がり追い越され、先に稜線の向こうに消えていった。自分も稜線に出るとすぐに今井さんがいて「あれ？こんな場所でどうしたのだろう」って思うと、「お疲れ！登頂おめでとう!!」って聞こえた。そこが山頂だった。嬉しいと思うよりも先に思ったことは「山頂なの？座っていいかな」だった。ダウンを着ていても寒く強風が吹いている環境で、果てしなく遠くまで見えるヒマラヤの景色に感動した。時間が遅かったので写真を数枚撮ってすぐに下山開始。下山も果てしないクライムダウンで下山し続けるが日没になり闇夜がどんどん濃くなっていく。ヘッドランプを付けた頃には真っ暗なプラトーで風が吹きあたりは視界不良でルーファイに神経を使った。それでも何とかテン



山頂でのツーショット

トに着き、テントの中に倒れ込んだ。

10月21日 C2～BC

翌朝下山開始。登る前と登頂後では見え方が違うようなチャムランを背に何度も振り返り写真に収める。6,100～6,500m間のいやらしいリッジも慎重にクライムダウンしていき下り続けるが日没を過ぎた5,300mくらいのガレ場から濃霧が出はじめ20mほどの視界となる。辺りはなだらかな丘上になっていて北アルプスの潤沢をもう少し広くし勾配も急にしたような地形になっている。積んできたはずのケルンもなかなか見つけられず渡渉点へたどり着けずしばらく2人であたりを探す。暫くするとわずかに濃霧の切れ間ができて地形を把握することができた。無事に渡渉してBCに戻るとコックが素晴らしい晩飯を用意してくれた。

■「事故概要報告」

11月2日 BC出発(今井単独)

11月3日 BC滞在中の武田が上部で行動中の今井を目視。 ※確認されたのはこの日が最後。

11月6日 AM9:00 あらかじめの今井の指示により救助要請。

11月7日 最終下山予定日を過ぎても今井が下山しないため、BC滞在中の武田が現地スタッフ2名とともにBC撤収(隊長の今井の予めの指示による)して、カーレBCへ移動。カンテガチームと合流し状況説明。

11月8日 午後。話し合いの結果、人命救助を最優先ということでカーレ村メンバーがヘリを手配。現地レスキュースタッフ(1名)付ヘリに武田が同乗し上空からチャムラン峰搜索(第1次ヘリ搜索)。 ※痕跡見つけられず搜索後、同ヘリにて馬目・武田はカトマンズへ移動。

11月10日 午前「第2次ヘリ搜索」

- カトマンズから馬目が同乗しルクラへ。

- そこで現地レスキューガイド1名と合流し、搜索方法と範囲を打ち合わせ。

- チャムラン峰搜索、今井のものと思われる装備(ブーツ、ザック)を標高5,600m付近にてヘリから目視確認。

「第3次ヘリ搜索」

- カーレ村にいったん引き返し、回収体制に入り再度飛行。(馬目カーレにて待機)

- 第2次搜索にて目視された地点に現地ガイドがロープにて下降、装備回収(ザック、ブーツ片方、リーシュ)

- 現地ガイドがロープを使用し、クレバスの中を目視にて探す他に発見されたものはなし。午後、馬目はヘリにて回収物とともにカトマンズへ帰着。

- 現場の状況などについて関係者と協議。

- 搜索打ち切りを決定。

■まとめ

ヒマラヤは日本の山を登るのとはまるでスケールが違い、単純な登頂だけが課題ではない。資金調達、情報収集から始まり、仕事や休みの調整も大変である。普段の日常においても仕事(貯蓄)とトレーニングのバランスに頭を悩ませている。それらの努力と葛藤と情熱とそしてチャンスがあってヒマラヤは行けるのだろうと感じている。だからこそ価値があるのだと思う。

今回、特にたくさんのことがありハッピーエンドではなかった。しかし、それでも自分の選んだ山であり、やれることをやり切り、楽しみ、そしてしっかりと見つめたと思う。たくさんの反省点がありそれらを見つめなおすことができる私は幸運なのだと思う。

今井さんとはけして長い時間を共に過ごしたとは言えませんが、非常に濃密な時間を共に過ごしました。今井さんの挑戦を間近に見させていただき、彼のやろうとしていることの困難さや緊張をヒシヒシと一緒に経験させていただきました。彼の友人さえも知らない今井さんと共に過ごしていたのだと思います。時に厳しく時にやさしくたくさんの登山技術や生活を教えていただきました。そして最後に身をもって山の怖さや非情さを教えていただきました。

これから先の人生で時折今井さんを思い出すのではなく、今もなおヒマラヤのチャムランの壁の下にいたのだという意識を持ち続けていきたいと思っています。決して過去のことにはしない。今もなおあの場所に今井さんはいると。そうすることで気が引き締まるような気がするからです。

それが今井さんの最後をご一緒させていただいた私の使命だと思います。

希望郷いわて国体リハーサル大会運営報告

6月11日、12日の2日間、岩手県盛岡市の県営運動公園において、本年10月に開催されるいわて国体山岳競技会のリハーサル大会として「スポーツクライミング第30回ジャパンカップリード競技岩手大会」「希望郷いわて国体記念ボルダリング大会」が開催された。競技に先立ちリハーサル大会の開始式がリード競技のアイソレーションルームで、リード・ボルダリング競技に出場する女子選手の参加を得て開始した。

「ジャパンカップリード競技」には、北は北海道から南は沖縄まで全国31都道府県から、2016リード日本代表選手内定している8名を含む、男子86名、女子52名、計138名が出場した。

岩手のリード壁は、全国でも珍しい上下可動壁で下部は最大135度まで引き上げることができる。

1日目の男女予選は下部が最大傾斜の135度に設定された壁を、国体方式で左右同一ルートと同時にスタートで行われた。



女子予選は2名が完登、25位タイが4名で28名が準決勝に。男子予選は17名が完登、23位タイが4名で

26名が決勝へ進んだ。

2日目の準決勝は男女とも下部の傾斜を127度に設定された壁を決勝進出の8位以内を目指し激戦が繰り広げられた。女子は予選の上位選手が順当に8名が決勝進出を決め、男子は決勝進出者8名のうち予選完登者7名。あと一手で決勝進出を逃した予選完登者6名が悔し涙を飲んだ。

女子決勝は、森秋彩が昨年のジャパンカップみなべ大会2位からの初優勝。2位には小武芽生、3位には伊藤ふたばが昨年4位から初の表彰台となった

男子決勝は、予選・準決勝で完登している是永敬一郎が初優勝。2位には中野稔が昨年に引き続き入賞。中上太人が初の決勝進出で見事3位に入った。

今大会のルートは傾斜が135度という壁を、一般観客からは「どうしてあんな急傾斜を登れるの?」という驚きの中、夢と感動を与えてくれた選手の素晴らしいパフォーマンスに感謝し、国際大会での活躍と、本大会でもまた素晴らしいパフォーマンスに期待した

い。

「希望郷いわて国体記念ボルダリング大会」は2名1チームの国体方式で2日間の日程で開催した。参加チームは東北6県のほか、茨城・東京・愛知・岐阜・京都の11都府県から男子21チーム、女子10チーム計31チームが出場した。

1日目 男女予選が行われ、それぞれ8チームが決勝へ進出した。2日目、女子決勝は山形県チームが優勝、2位・3位には福島県チームが入賞した。1位と3位は10歳から13歳のジュニアであった。



男子決勝は1位は愛知県チーム、2位・3位はボーナスの Attempts 差で2位青森、3位東京のチームが入賞した。

ボルダリング大会を振り返ってみて、リハーサル大会とはいえ国体の壁でA級ルートセッターがセットすることを考えると、選手強化のためにも参加チームが増え盛り上がる大会になればと考えます。

2日間のリハーサル大会リードの運営については、①ジャパンカップと国体では競技運営に違いがあることは分かっていたが、やはり競技役員には戸惑いがあった。

②国体は団体戦、ジャパンカップは個人戦そして競技は国体規則に縛られないことを理解して競技運営の周知徹底を図る必要があった。例えば、国体の集計プログラムを使用した集計のため枝番のある選手番号で運用したこともあり、そのことで競技役員と選手の間意識の違いがあった。

③メディアの対応についても競技役員に周知徹底が図れなかったことで誤解をまねいた。

ボルダリングの運営については、

①2日間にわたり競技したことにより、予選と決勝の競技進行の違いを確認することができた。

②本番に向け、係業務の再点検及び連携をしっかりと改善すべきことが洗い出されたので万全を期したい。リードも同様である。

最後に、リハ大会の競技運営にご尽力いただきました日本山岳協会、盛岡市実行委員会の他関係者の皆様には感謝を申し上げます。

(副審判長 小山勝稔)

第92回 Mountain World

『マウンテン』編集者 ケン・ウィルソン

池田常道

ケン・ウィルソンを知っているのは、もっぱら70～80年代に現役だった人だろう。69年から78年まで英国の登攀専門誌MOUNTAINの編集長を務め、クライミング界に新風を吹き込んだジャーナリストである。彼は6月初めにこの世を去った。一流とは言わないまでも熱心なロッククライマーだったケン、それまで20年続いていたMOUNTAIN CRAFTを買収して改題、69年1月にMOUNTAINを創刊した。おりしも、ドゥーガル・ハストンやマーティン・ボイスンはパタゴニアのセロ・トーレに挑戦し、クリス・ボニントンは彼らを糾合してアンナプルナ南壁への準備を進め、ノーマン・ディーレンファースはエヴェレスト南西壁計画を進めつつあった。ネパール・ヒマラヤの(再)解禁に伴って開かれる大山岳への道は、英国のみならず世界のクライマーの野心を掻き立てていた。

MOUNTAINは、こうした波を追い風に衝撃的なデビューを飾った。商業誌としてはすでに、トニー・ヒーベラーのALPINISMUSがあったが、それまでの主流はもっぱら各国山岳会の年報かニュースレターで、洗練されたレイアウトと時代を反映した登攀情報、辛口の評論という斬新なスタイルは英語圏以外のクライマーにもアピールした。

創刊当初から世界を視野に入れていたケン、シャモニのスネル・スポーツにいた鈴木勝氏にコンタクト、同氏を通じて吉澤一郎氏に日本関係の情報提供を求めてきた。それが、当時『岩と雪』の編集に携わっていた筆者とケンとの交流の始まりである。とりわけ、当時最もホットな話題だったエヴェレスト南西壁に初めて挑んだ日本隊の情報は、おおいに重宝された。

元々ロッククライマーだったケンの編集方針の拠り所は、リト・テハダ＝フローレスが米誌ASCENTに書いた有名な論文、GAMES CLIMBERS PLAYにあった。ボルダリングから遠征登攀まで、異なる登攀行為の価値観とルールを明快に腑分けしたこの論文は、不幸にしてわが国には正しく紹介されることがなかった。『岩と雪』も、遅まきながらその全文を93号(83年2月号)に翻訳・掲載して再確認を図った。こういった作業がもっと早く行われていたなら、高峰のアルパイン

スタイルをたんなるスピード競争と決めつけたり、フリークライミングを裸の岩登りとして蔑視したりするような回り道は避けられたのではないかと、今更ながら反省している。

さて、MOUNTAINに続いて筆者の提携先となったのは、米国のCLIMBINGだった。編集長のマイケル・ケネディは、ケンや筆者に比べればはるかに本格的なアルパイン・クライマーで、フォーカー南壁初登攀やラトック北稜試登など、かくかくたる登攀歴の持ち主だった。コロラドのローカル誌に過ぎなかったこの雑誌を、彼は75年から17年かけて国際誌へと育て上げた。わが『岩と雪』もこの両者との交流を軸に国際レベルの記事を載せるよう心掛けた。

しかし残念ながら、そんな蜜月時代も長くは続かなかった。ケンは78年に編集長を辞して後任のティム・ルイスに託したが、穏健なクライマーだったティムのMOUNTAINからは、ケンの主導した批判的論調は失われ、同誌は92年5/6月号の145号を以て廃刊となった。INDEPENDENT紙が当時伝えたところによれば最終号(145号)の刷部数は8300、英国内の実売数は3000にまで落ち込んでいたという。その後ケンはDIADEM BOOKS、BARTON WICKSなどの出版社を興して歴史に残るような山岳書を世に問い、昨年11月にボードマン＝タスカー文学賞の功労賞を受賞した。一方ケネディも編集長を辞し、米ALPINIST誌の編集顧問となった。息子のヘイドウンもクライマーで、セロ・トーレにマエストリが打ったボルトを切り取ってルートを再生、昨年セロ・キシウトワール東壁でピオレドールを受賞した。そして『岩と雪』は95年春の169号を以て廃刊、現在はROCK & SNOWに引き継がれたのはご存知のとおりである。



1973年、オフィスで雄弁を奮うケン・ウィルソン。
クリス・ボニントン所蔵

「山の日」制定記念

—ふるさとの山を登ろう—

山形県・出羽三山のこと

山形県は、その名の通り豊かな自然、特に素晴らしい山の宝庫です。百名山には、飯豊山、朝日岳、西吾妻、蔵王山、鳥海山、そして月山の6山が入っています。どの山もそれぞれに素晴らしい山であることは言うまでもありませんが、地理的に山形県のほぼ中央に位置し、県内のどの市町村からも望むことのできる月山を主峰とする出羽三山についての紹介をいたします。

出羽三山は、月山(1984 m)・湯殿山(1504 m)・羽黒山(414 m)の三つの山を総称して出羽三山と言い、今年出羽三山は日本遺産に認定されました。ところで、出羽三山という呼び方は、近代以降の呼び方で、「羽州三山」「奥三山」「羽黒三山(天台宗派)」「湯殿三山(真言宗派)」など様々の呼び名がありました。鳥海山や葉山が三山に含まれていた時代もあり、寺院間の対立も長く続きました。出羽三山神社の社伝では、およそ1400年前飛鳥時代に蘇我氏に追われた崇峻天皇の皇子、蜂子皇子が開山したと伝えられている神仏習合の歴史ある山で、江戸時代には、東国三十三ヶ国総鎮守とされ、熊野三山、英彦山と共に日本三大修験山と称され絶大な権力を誇りました。東北・関東方面では古くから、出羽三山に登拝する習慣が広くあり、一生のうちに一度は果たしたい重要な儀礼となっており、伊勢神宮の「お伊勢参り」に対して出羽三山を詣でることを「奥参り」と称しました。

蜂子の皇子は、道なき道を導いてくれた大鳥(やたがらす)の羽に因んで最初の山を「羽黒の山」と名づけ一堂を建立されました。これが出羽神社で、祭神は伊弉波神(いではのかみ)と稲倉魂命(うかのみたのみこと)の二神、本地仏は正観音菩薩です。皇子は、尚も就業の心やみ難く、山々の峰を伝って深山に入りました。難業苦行の末のある日、雲海の彼方に尊い仏の御姿が拝され(今思えばブロッケン現象か)、皇子は月読みの神か、弥陀の如来かと思ったそうです。やがて、東の空に輝く月が登り始め、天井の月が慈愛の光を与え、「此処は月に最も近い山だ」と感じ、「月の山」と呼びました。月山神社の祭神は月読命(つきよのみこと)、本地仏は阿弥陀如来です。皇子はしばらくの間、此処の山頂に過して神泉池の水を呑み、草木を食べ能除仙人と言われる生活を送りました。

八月も末となり山頂は既に秋風が吹き初め、木々は紅葉し始めていました。山間の谷間から毎日白雲が湧



鶴岡からの月山

く処があり、皇子はなんの白雲かを確かめようと思い山を下ったそうです。沢伝いによろやく降りてみると、そこにはもうもうたる白雲の様な湯けむりが立ちこめ、赤褐色の岩肌から噴出する湯は、小川となって流れ、滝となって落ちていたそうです。人里離れた深山の出湯は、神の造り給うた楽園に違いないとこの山を「湯殿山」と名付けました。祭神は大山祇神(おほやまつみのみこと)と大己貴命(おほなむちのみこと)・少彦名命(すくなひこなのみこと)の三神、本地仏は大日如来です。

もうもうと上がる湯気とこんこんとわき出る湯の中で、皇子は身も心も疲れを癒したそうです。「蕃神と言われた仏教が、日本に伝来した事は、確かに世の人々の心を混乱に陥れた。その混沌とした思想の渦の中に、私は神と仏に悩み、命をとして山に登り、荘厳な山の靈気に打たれてここに仏道ありと感得した。私にとって、神の道も仏の道も二筋の道ではなくなっている。すべては、宇宙を造り給うた神の御許へ帰る道である、それが修験の道である。」そして多くの人々の病を癒すために、この湯殿への道を開かねばならないと思われたとのことでした。

出羽三山の信仰は、自然崇拜・山岳信仰・神道・仏教・修験道…、親から子へ、子から孫へと伝えられ、山形県では成人儀礼として男子は15歳になると「初山駆け」をしなければならないといった風習が最近まで残っていました。羽黒山は現世、月山は死後の山、湯殿山は生まれ変わりの山といい、擬死体験・蘇りを果たす「三関三度(さんかんさんど)」の山とも言われています。

(山形県山岳連盟会長 伊藤吉樹)

2016UAAA理事会報告

6月8日に中国四川省成都でUAAA理事会が開催された。参加は8か国・地域13団体。JMAからは八木原会長、小野寺常務理事が参加した。

参加団体はCAC (Corean Alpine Club)、KAF (Korean Alpine Federation)、JMA (日本山岳協会)、JWAF (日本勤労者山岳連盟)、CTMA (Chinese Taipei Mountaineering Association)、CTAA (Chinese Taipei Alpine Association)、IMSCF (Iran Mountaineering & Sport Climbing Federation)、ACP (Alpine Club of Pakistan)、NMA (Nepal Mountaineering Association)、MCMAC (Mongolian Altai Club)、CAM (Club Alpine Mongolia)、CHMCU (China HongKong Mountaineering & Climbing Union)、CMA (Chinese Mountaineering Federation)。

さて、会長国は前回の総会でKAFの続投になっており、副会長国は未定であったが、今回はネパール(遠征担当)、イラン(自然保護担当)、中国(青少年担当)と、やはりそのままであった。

1. 開会

CMA副会長Xu Chuan及び、四川省登山戸外運動協会アドミンの歓迎の言葉があり、InJeong Lee会長の挨拶、定足数、アジェンダの確認など通常通りの手順で行われた。昨年の総会議事録は次回出来るとのこと。

2. 会長及びUAAAオフィスの報告

(1) アジアピオレドール賞アジア Lee会長が個人で\$1,000を出して選考しているが、まだ候補者が決まっていない。

(2) IMM (International Mountain Museum) にUAAAコーナーを作り、\$5,000寄付するとのこと。

(3) UIAAの理事会(5/14にアゼルバイジャンで開催)では、アジアにおける動向を連絡することになった、とChristine事務局長から報告があった。

(4) アイスクライミングにおいて2022年北京開催の冬季五輪に種目化を目指すべく、トレーニング・コースを開催、UIAAからは戦略担当役員のThomas Kaehrが参加したとのこと。

(5) NMAからマナスルとローツェの初登頂60周年記念祝賀会を開催した、と報告があった。

3. 各加盟団体の活動について

参加国の2015年の活動について、PowerPointや口頭で発表があった。ACPのManzor会長は、UAAA創設時からの役員であるが、そろそろACP会長を引退したい、と発言。但し、UAAAの会議には参加すると

のこと。日山協は最近の動向として、スポーツクライミングの五輪種目化の動向について説明した。「山の日」と映画「エヴェレスト」のポスターの組み合わせや、AAE (Asian Alpine News) の事などを紹介した。

4. 委員会レポート

各々の副会長が各委員会を担当し、以前は加盟団体とも協力して各委員会を盛り上げよう、と話をしたこともあるが、今回はただ、自国紹介に留まった。

(1) イラン(自然保護)は、ダマバンド山の清掃登山、氷河保護、及びUIAAの自然保護アワードを目指しての動きなどが紹介された。

(2) 中国(青少年)は、15の省で700人参加の青少年サマーキャンプやクライミングプロジェクトのこと、中国、日本(JAC)、韓国の交流会のことなどであった。

(3) ネパール(遠征)は、過去2年は雪崩と地震で国として散々な目に遭ったが、今年は87%復興し、287人がエヴェレストに登ったことなどが紹介された。地域経済活性化に協力をお願いしたいとのこと。

5. 財政レポート

CTMAのHank氏から報告があった。会費を過去数年支払っていなかったIMFが支払ってくれた。監査はCHMCUのFrederick氏が行った。問題なかったとのこと。

6. メンバーシップについて

定款ではメンバーシップについての細かい規程はない。特にモンゴルでは山岳会や山岳連盟が別々にできて各々がUAAA会員になることを希望している。従って正規メンバーとは別にオブザーバー会員を設けることになり、次回の総会までに定款案を事務局で作成することになった。オブザーバー会員希望はMNMF (モンゴル国立山岳連盟) の他TAAAN (ネパールトレッキング協会) などが名乗りを上げている。会費は低廉なものになりそうである。また、日山協の神崎顧問も前年UAAAのアドバイザーになったが、それも定款に組み込むとのことである。



7. 遠征・キャンプ等

今年はカザフスタンのサマーキャンプが7月末から予定されている。残念ながら今回はカザフからの出席はなかったが、日本からは6名の参加があると発言しておいた。また、UIAAのYouth Campがイランで予定されている。日本でも国際委員会には伝えてある。来年度の合同遠征、レスキュートレーニングのプランはまだ無い。

8. その他

(1) 今年のネパールでの総会時にマカルーとカンチの初登頂60周年の祝賀会を行う。

(2) UAAAのWebsiteの保守更新をイランが行う。

9. 来年以降の会議予定

(1) 2016年総会は11月にネパール・カトマンズ。

(2) 2017年理事会はモンゴル、総会はイラン(U I A A総会も同時)

(3) 2018年理事会はノボシビルスク、総会は香港

(4) 2019年理事会は台北

10. 閉会

InJeong Lee 会長の挨拶の後、無事終了した。

(記 小野寺育)

る岳連も少数ながらある一方で、海外関連はほとんど動いていないという岳連も多くありました。どこも活性化を目指して海外登山計画などを模索しているようですが、思ったほど人が集まらない、特に一番動ける中間世代がいないというのが共通の状況です。現代の成年世代は仕事に縛られている現実も話題となりました。スポーツクライミング関連の仕事が増えていること、個人会員制度の検討なども多くの岳連が近況として挙げていました。

15時からは海外登山技術研究会。京都府岳連の四方会長にご挨拶をいただき、その後海外登山報告。昨年の奨励金交付隊であるチャムラン登山隊からは、武田真敏氏に報告をしていただきました。この登山隊は、隊長の今井健司氏がソロでの北壁アタックから戻らないという遭難がありましたが、その前には西稜より順化も兼ねて登頂を果たしており、その登山の様子が報告されました。

続いて同じく奨励金交付隊より、パタゴニアクライミングの報告を長門敬明氏よりしていただきました。今回のクライミングではスタイルにこだわった新ルート開拓がなされており、その意味を説明すべくパタゴニアのクライミングの歴史から話は始まります。頂上を踏むことに加えてスタイルが重視される時代に、これまでに試みたことのなかったオールフリーにこだわった初登攀トライを、臨場感たっぷりに報告していただきました。パタゴニアの美しいクライミングシーンも見応えがありました。

3つ目は、昨夏の同志社大学の西ネパールアイチン峰初登頂報告を、学生の仙田裕樹氏、宇野悠真氏にさせていただきました。これは現役学生のみ5人による登山隊で、OBによる助言も受けながら計画を推進、ほとんどが海外は初めてという登山隊で無事に初登頂を果たして帰ってきました。地図とグーグルアースで目標を定めたため、山を見るまでどんな山か不安であったこと、またキャラバン中の馬方たちとのやりとり、全員登頂を目指して組んだアタック計画など、新鮮な

平成28年度国際委員総会及び 第55回海外登山技術研究会報告

6月11日(土)、12日(日)の週末、京都府右京区の京都ゼミナールハウスにおいて、表記の総会と研究会が開催されました。これは隔年で地方開催しているもので、今年度は京都府岳連の主管により開催したものです。総会への参加岳連は18岳連/協会、その後の研究会も含めると総勢62名が参加しました。

まず土曜日の13時からは委員総会。尾形副会長の挨拶に続き、昨年度の国際委員会の事業・会計報告と今年度の計画について説明し、その後各岳連からの近況報告をしていただきました。比較的盛んに動いてい

SF冒険小説「失われた世界」の舞台でトレッキング

秘境ギアナ高地、ロライマ山ヘリ・トレッキングと
世界最大落差の滝エンゼルフォール 15日間

発着地 東京 旅行代金 ¥862,000

出発日 9/14(水)・10/12(水)・11/9(水)

※燃油サーチャージ(6月30日現在)は、不要となっておりますが、今後変更になる場合は、ご旅行代金ご請求の際にご案内いたします。

旅行企画・実施 観光庁長官登録旅行業第490号/日本旅行業協会正会員/ボンド保証会員

 アルパイン ツアーズ サービス 株式会社

〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11 第7東洋海ビル4階 ☎03-3503-1911

大阪 ☎06-6444-3033 名古屋 ☎052-581-3211 福岡 ☎092-715-1557

e-mail: info@alpine-tour.com http://www.alpine-tour.com

日本山岳会百周年記念出版

改訂 新日本山岳誌

日本山岳会編 この10年間で「動いた」日本の4000山を、会員の脚で再調査して改訂した最新の山岳大事典。18000円

インド・ヒマラヤ

日本山岳会東海支部編 この地域の日本初の最新登山記録集成。概説、概念図、写真、登山記録、登山史、文献を集約した必携の書。6000円

ヒマラヤの東山岳地図帳

中村保 地球最後の未踏峰の宝庫(中国深奥部)を多数の写真・地図で明らかにした世界初の詳細な山岳地図帳。10000円

606-8161 京都市左京区
一乗寺木ノ本町15
www.nakanishiya.co.jp/

ナカニシヤ出版

TEL.075-723-0111
FAX.075-723-0095
(価格は本体価格)

驚きや発見が初々しく語られ、会場も和やかな雰囲気になりました。彼らの今後の登山にも期待したいです。その後、岩崎国際常任委員より、最近の海外登山地情報を報告していただき1日目のプログラムは終了しました。

今回京都府岳連に用意していただいたゼミナールハウスは、改装直後とのことととてもきれいで快適な宿泊施設でした。食事とその後の懇親会でも、多くの飲み物と料理が用意され、大変満足のいく楽しい時を過ごせたと思います。

研究会2日目は、中国の未開エリアという特集を組みました。はじめは「未知への挑戦、カンリガルポ山群、ニンチェンタラ西山群の山々」という演題で、神戸大学山岳会の井上達男氏にお話をいただきました。神戸大学山岳会は2000年代に入り、ルオニ峰、ロプチン峰、バダリ峰と登山隊を出し、表題の地域で貴重な結果を残しています。長年、未知や初登頂に価値を置き、中国政府との地道な交渉の末、入りにくいと言われるこの地域に入ってきました。今回は井上氏の参加しているロプチン峰の初登頂と、バダリ峰手前のタリ峰の初登頂報告をしていただき、また井上氏がこれまで精力的に行ってきたこの地域の山座同定の資料を多く発表していただきました。

次は「四姑娘山群の未踏峰に岩登りルートを拓く一



未踏の大岩峰が誘う横断山脈」というタイトルで、長年真摯にクライミングに取り組んでこられた大内直樹氏のお話でした。氏はこれまでに四川省の岩壁群に、11ルートを拓いています。特にチョンライ山系には足繁く通り、これまでに拓いたルートのお話やこれから登ろうというピークのお話、また冬季の同エリアでのアイスクライミングのお話など、熱のこもった講演をしていただきました。また素晴らしく美しい未踏の岩峰の写真もたくさん見せていただきました。そしてお昼に研究会は閉会、解散となりました。

今回の研究会は振り返ってみれば、未開エリア、初登攀特集でもありました。登山の本質はパイオニアワークであると思います。世界のみならず国内の山にも、見方によればまだまだパイオニアワークはあります。研究会にご参加いただいた方々が、この研究会を刺激にして、また充実したご自身の登山をしていただければ嬉しく思います。 (国際委員会 澤田 実)

平成27年度事業報告

(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

総 括

八木原新体制でスタートした平成27年度上期の出来事で、特筆すべきことはスポーツクライミングが「2020東京五輪」への追加競技種目として、2020東京五輪組織委員会からIOCに推薦されたことである。推薦されたことは大変光栄なことであり、将来に明るい展望を開くことにもなる。しかし、日山協の現在の組織や財政基盤で5年後を迎えることができるのか、これまでの課題や問題はあまりにも多い。

スポーツクライミングの五輪種目化に伴う国内の中央競技団体(NF)の在り方や組織等について、平成27年11月に設置された諮問委員会(神崎顧問を座長とする10名の委員で構成)に会長が諮問した。答申は平成28年4月に提出された。

平成25年4月から公益社団法人に移行した時、組織体制を三部制(総務・登山・競技)にしたが、懸案事項となっていた登山部の、指導委員会と遭対委員会の統合については、一般登山者教育及びリーダーの育成事業等で統合への方向性が確認できた。

また、競技部所管の資格(審判員・ルートセッター)取得者の登録、認定が大幅に遅れていることについては、平成27年9月から「登録台帳」の整備を含めた抜本的な改善作業を実施し、平成28年度から登録業務が円滑に行える目処があった。

今後さらに、資格認定手順の仕組みの明確化やデータベース(DB)化についても急ぎ検討の必要があり、有資格者の登録、加盟団体構成員の登録など会員のDB化についても急ぎ検討し、平成28年度はシステム設計に入る予定である。

また、平成28年8月11日に、国民の祝日「山の日」が施行されるのに伴い、平成27年度は「山の日」制定記念事業を全国の各ブロック単位で実施した。平成28年度は各都道府県で「山の日」にちなんだキャンペーン事業を展開する予定である。

青少年育成事業として取り組んでいる「みんな集まれ!ジュニア登山教室in立山」や各都道府県山岳連盟(協会)に委託している「少年少女登山教室」は参加者の一部固定傾向や、未実施の都道府県山岳連盟(協会)も半数近くあるが、いずれも地方組織の活性化にもつながる事業であり積極的に取り組まれることを望みたい。

一方、平成27年度は「登山月報」の表紙をリニューアルし、全16ページをカラー刷りにした。またHPやSNSを活用して日山協をよりよく知ってもらうため、広報委員会内に「デジタル情報小委員会」を設置した。

デジタル情報小委員会では、平成27年11月に、アンケート調査を行い、調査で得た多くの意見、要望等を集約して効率的な発信ができるようさらに改善方策を検討中である。

HPの拡充についても、すでに開発会社との契約を結び、平成28年度の早い時期に新たなHPの展開を図ることにしている。

平成27年8月末には、全役員(理事25名・監事3名)対象の「役員研修会」を2日間の日程で開催した。

1日目は、講話と分科会、2日目は理事懇談会が行われ、日山協の課題や問題を共有しながら、それぞれの立場で課題解決に向けた提案や意見、具体的方策を話し合った。

財政については、スポーツライミングの五輪種目化に向けて、協賛金に予算以上の収入がみられた。

しかし、同時にIF(国際連盟)来日費用負担、大会の大規模化など支出も増加傾向にあり、収支バランスを維持することが課題だが、平成27年度は小幅な動きに留まり、結果は収支均等を維持した。

平成28年度は大幅な収入・支出増が見込まれ、より慎重な運営に努めなければならない。

1 青少年育成事業

ア) 高体連登山部関連

①第59回全国高等学校登山大会の開催

8/7(金)～10(月) 滋賀県・高島市マキノ高原、比良山地、男女376選手参加

②第6回全国高等学校選抜クライミング選手権大会の開催

12/23～24、加須市、男女195選手参加

イ) ジュニア普及

①「少年少女登山教室」の開催(委託実施25件)

②「みんな集まれ! ジュニア登山教室 in 立山2015」

平成27年8/16(日)～19(水) 国立立山青少年自然の家、立山周辺 子ども14名参加

③ジュニア・普及情報交換会

2/13(土) Bumb 東京スポーツ文化館 参加者21名

ウ) 「山の日」制定記念事業「ふるさとの山を登ろう」

全国9ブロックで開催

エ) 第6回日本山岳遺産サミット開催への協力

2. 登山に関する文化・学術の振興事業

ア) 新聞・ラジオ・テレビ・雑誌等への情報提供

イ) 表彰・感謝状・推薦・顕彰

●第65回日本スポーツ賞受賞 緒方良行

●平成27年度実施各競技大会入賞者(1位～3位)表彰

●第54回全日本登山体育大会功労者特別表彰: 水野金太郎(群馬)、西田六助(愛媛)、石神美智子(大分)、以上3名

●平成27年度永年参与感謝状贈呈: 松尾壽(岩手)、尾形一幸(福島)、三森一男(福島)、以上3名

●新春懇談会特別表彰者は以下の通り

佐藤旺、瀧本健、徳永邦光(以上東京)、松本睦男、土肥浩嗣(以上富山)、秋山泉(山梨)、宮本義彦(長野)、木村実(茨城)、目次俊雄(千葉)、前田善彦(奈良)、溝上春見(長崎)、野口啓代、緒方良行(以上、選手強化委員会推薦)

●第5回日本山岳グランプリの公募と贈賞: 飛騨山岳会(岐阜)

●平成27年度自然公園指導員自然環境局長表彰候補者として服部一雄(青森)、瀬戸朋義(埼玉)を推薦

ウ) 平成27年度海外登山隊奨励金の公募と交付(2015年9月～2016年2月出発隊対象) 4隊に交付決定

●GiriGri Boys Patagonia Expedition (20万円交付)

●Chamlang Japan Expedition 2015 (20万円交付)

●Kangtega Expedition 2015 (20万円交付)

エ) 各種登山・山岳スポーツ大会等の後援(30件)

3. 安全登山の啓発事業

ア) 中高年安全登山指導者講習会の実施

①東部地区(東京・高尾山) 9/11(金)～13(日) 参加者80名

②西部地区(京都・京都北山) 11/28(土)～30(日) 参加者97名
イ) 山岳レスキュー講習会

①西部地区(富山・国立登山研) 9/11(金)～13(日) 参加者46名

②東部地区(群馬・土合山の家) 1/29(金)～31(日) 参加者34名

ウ) 第54回全日本登山体育大会・宮城大会開催

10/9(金)～11(日) 宮城県・栗駒山周辺 参加者288名

エ) 研修及び研究会

①遭難対策研修会兼委員総会(6/27(土)～28(日) 関西大学高槻キャンパス)

②遭対常任委員夏山研修会(4/18(土)～19(日) 埼玉・伊奈県民活動センター)

③国際委員総会兼第34回海外遭難対策研究会(6/13(土)～14(日) 国立オリンピック記念青少年センター 参加者42名)

④海外登山懇談会(11/19(木) 国立オリンピック記念青少年総合センター 参加者54名)

⑤第54回海外登山技術研究会(2/13(土)～14(日) 国立オリンピック記念総合センター 参加者延べ133名)

オ) 平成27年度全国山岳遭難対策協議会の共催(文部科学省他) 7/2(木) 東京・文部科学省講堂 参加者300名

カ) 山岳保険加入者の事故調査(報告書作成/H P掲載)

キ) UIAA登山標準の調査

●UIAA登山委員会開催 4/10～11 関西大学高槻キャンパス

●UIAA登山委員会に青山副委員長を派遣

11/12(木)～11/14(土) ロンドン、スペイン

ク) 遭難事故の調査研究

●遭難事故に関する調査研究(委託事業)

●技術用具の研究(ロープ結束強度検証) 9/26(土)～27(日)

ケ) 遭難事故科学的研究支援

●IMSAAR研究助成支援(継続)

コ) 位置探知機「ヒトココ」のレンタル・サービス

4. 登山指導者育成事業

ア) 指導員研修会

①指導常任委員研修会

●8/22(土)～23(日) 神奈川県山岳スポーツセンター 参加者7名

●2/10(木)～11(木) 土合山の家 参加者10名

②登攀技術研修会(A級主任検定員・上級指導員養成講習会) 11/21(土)～22(日) 神奈川県山岳スポーツセンター 25名

③氷雪技術研修会(A級主任検定員・上級指導員養成講習会) 4/25(土)～26(日) 富士山 参加者35名
2/20(土)～21(日) 大山 参加者27名

④指導委員研修・委員総会

6/13(土)～14(日) 東京海員会館 参加者61名

⑤安全登山実践講座・基礎編の開催(東京、山梨)

イ) 公認山岳スポーツ指導者の養成

①上級指導員・主任検定員養成講習会の実施

●中央開催: 7/10(金)～12(日) 東京・昭島

5. 登山者教育事業

ア) 指導・遭対委合同研修会 6/20(土)～21(日) 19名参加

イ) 夏山登山リーダー制度検討開始

6. 競技会運営事業

ア) 競技会・研修会の開催

①第10回山岳スキー競技日本選手権大会

- 4 / 5(土)～6(日)、長野県・榑池高原、参加選手63名
- ②全日本クライミングユース選手権ボルダリング競技大会
5 / 16(土)～17(日)、鳥取県倉吉市、参加選手 194名
- ③第29回リード・ジャパンカップ(和歌山国体リハーサル大会) 6 / 6(土)～7(日)和歌山県みなべ町 参加選手140名
- ④第18回JOCジュニアオリンピックカップ
8 / 14(金)～16(日) 富山県南砺市桜が池cc 214名参加
- ⑤全国ルートセッター研修会
8 / 17(月)～19(水) 富山県南砺市桜が池cc 参加者12名
12/25(月)～27(水) 埼玉県加須市 参加6名
- ⑥第11回ボルダリング・ジャパンカップ
1 / 30(土)～31(日) 埼玉県・加須市民体育館 149名参加
- ⑦日本選手権兼日本ユース選手権リード競技大会
3 / 26(土)～27(日) 印西松山下公園総合体育館 246名参加
- ⑧競技部ブロック研修会の開催 11月～3月 全国9ブロック
- ⑨全日本パラクライミング選手権大会
1 / 10(日) 明治大学和泉キャンパス総合体育館 16名参加

- ⑩審判・セッター会議(2/20)
- ⑪競技委員総会の開催(4/6(日)、岸記念体育会館)
- イ) 国体山岳競技の主管
- ①4 / 18(土)～19(日) 第70回和歌山国体第1回基準会議、和歌山県みなべ町
- ②6 / 5(金)～6(土) 第70回和歌山国体第2回基準会議、和歌山県みなべ町
- ③9 / 6(日) 組合せ抽選会 岸記念体育会館
- ④第70回和歌山国体山岳競技開催
10/3(土)～5(月) 和歌山県みなべ町
- ⑤各ブロック別大会、都道府県予選大会の開催(委託実施)
- ⑥第70回和歌山国体以降の開催県への指導
- ⑦三重国体正規視察11月19日(木) 三重県菟野町

7. 競技力向上事業

- ア) 日本代表選手選考・派遣
- ①世界ユース選手権大会(8/26(水)～9/7(月) イタリア・アルコ) 小日向監督他29名 ボルダリング：金1、銀2、リード：銅2
- ②IFSCクライミングWC 2015(リード、ボルダリング)
- ボルダリングでは、野口啓代選手が女子ランキング1位で2連覇達成。野中生萌選手が3位となった。
- ③アジア選手権(11/20～22 リード、スピード、ボルダリー)
リード：金1、銀2、銅1 ボルダリング：金2、銀2、銅1
- ⑤アジアユース選手権
(12/3～6 リード、スピード、ボルダリー)
4カテゴリー(3種目、男女) 金14、銀8、銅6

- イ) ユース強化合宿の派遣
(1/4(月)～12(水) イタリア・トリノ)
- ウ) ユース選手・指導者講習会の開催
- エ) トップ・クライマーの体力測定(JISSに委託)の結果分析
- オ) 競技者育成プログラムの作成とそれに係る事業の検討
- カ) オリンピック・プロジェクト・チーム

8. 国際交流事業

- ア) 訪日する外国登山代表団との交流
- サミナ・メバイグ(パキスタン女性で世界7大陸最高峰登頂者) 歓迎レセプション。(10/2、駐日パキスタン大使館)
- イ) 派遣
- ①キルギス山岳会のレーニン峰登山派遣(7/17～8/8、

- 大場智之、川原庸照)
- ②UIAA International Youth Expeditionのダマヴァンド登山派遣(7/21～31 鈴木将太)
- ③BMC Summer International Climber Meet 2016 派遣(大部良輔)

9. 医・科学支援事業

- ア) 日体協公認スポーツドクター養成支援(受講希望者の推薦及びスポーツドクター代表者協議会への出席)
- イ) UIAA MedCom Meetingへの出席
- ウ) 日山協が支援している医科学的諸事業

- ①国際認定山岳医研修会
- ②日本登山医学会認定山岳医研修会
- ③NPO富士山測候所を活用する会
- ④J S M M登山者検診ネットワーク
- ⑤日本登山医学会ファーストエイド講習会
- エ) 調査研究事業
- ①トレラン大会の安全基準作成のための調査研究
- ②医療支援を視野に入れた学校登山の実態調査

10. アンチ・ドーピング

- ア) アンチ・ドーピング思想の普及・啓発・教育など
- ①ドーピング検査実施(JADAに委託)
- ②TUE(治療目的使用に関わる除外措置)申請の支援
- ③ADAMS(アンチ・ドーピング管理システム)登録選手への管理支援
- ④国体監督会議やブロック別研修会での啓発・教育の推進

11. 山岳環境保全事業

- ア) 研修及び研究会
- ①自然保護委員総会の開催 9/12～13 国立磐梯青少年交流の家 参加者110名
- ②常任委員研修会 6/13(土)～14(日) 長野・戸隠
- ③第4回関東地区自然保護交流会
10/31(土)～11/1(日) 茨城県日立市 参加者52名
- ④自然保護指導員研修会 11/7(土) 国立オリンピック記念青少年総合センター 参加者70名

- イ) 自然保護の啓発
- ①自然保護指導員制度の推進
- ②全国環境月間(6月)の実施
- ③環境庁・自然公園指導員制度への協力
- ④山岳自然保護関係団体と連携して自然保護活動の推進
- ⑤JOC主催「スポーツと環境会議」への参加・協力

12. その他支援事業

- ア) ネパール大地震救援募金活動(山岳6団体と共同)
募金期間(5/1～3/31)、総額27,042,390円(その内JMA 205件、6,368,826円)

13. 共益事業

- (1) 広報等
- ア) 『登山月報』毎月15日定期発行 第553号～第564号
- イ) HPの更新(<http://www.jma-sangaku.or.jp>)
- ウ) デジタル情報チームの設置
- (2) 会議等
- ア) 総会 5/31(日)(岸記念体育会館)
- イ) 理事会 5/16(土)、5/31(日)、11/8(日)、3/6(日)
- ウ) 全国参与会 10/9(金) 宮城県(全日大会開催時)
- エ) 顧問・参与会 1/16(土)(新春懇談会開催時)
- オ) 役員研修会 8/29(土)～30(日) 東京海員会館、27名
- カ) 山岳4団体懇談会 7/23(木)(労山が幹事)
- キ) 全国「山の日」協議会の推進



平成28年度(28年6月)
常務理事会報告

日時 平成28年6月16日(休)
18時～21時10分

場所 岸記念体育会館504号室

出席者 八木原会長、尾形・國松・高橋・
亀山各副会長、小野寺、森下、京オ、
水島、瀧本、仙石、中瀬各常務理事、
中島監事

委任 西内常務理事

1. 議事

- (1)平成27年度5月常務理事会・連絡部
会議事録の承認について(事前送付
済) メール回議で承認済。
- (2)平成27年度決算及び補正予算編成及
び月次会計報告について
27年度決算ミス(JOC補助金未収金の
減額計上)について説明。議長が会
場に諮り、全員承認した。5月の月次
については、全員が承認した。
- (3)会長諮問委員会の答申について
時間の都合上、最後に協議することに
した。結局、時間が足りなく、業務執
行理事の考えを文書で提出すること
が提案され、了承された。
- (4)平成28年度専門委員会常任委員の承
認について
7月に最終決定することで承認。
- (5)国体功労者推薦について
岩手県から県体協経由で推薦するとの
こと。日山協としては該当者なし。
- (6)UIAA ユース委員会・アリエー
ジュ・クライミングキャンプ参加承
認について
林健太郎氏の派遣が承認された。
- (7)インターハイ技術顧問の派遣
事務局で調整することで承認。(最終
的に小野寺常務理事を派遣)

2. 報告事項

- (1)平成28年度定時総会議事録について
(全員が了承した。)
- (2)平成28年度第2回理事会議事録につ
いて(全員が了承した。)
- (3)国体アンケート(競技部)について
京オ競技副部長が概要について説明。
- (4)第77回国体視察について 10/13に
栃木県壬生町に京オ、西原を派遣。
- (5)国体総合開会式への参加意向調査につ
いての報告
- (6)内閣府への提出書類について報告
- (7)28年度中高年安全登山指導者講習会
(東部・西部)の開催要項を報告。
- (8)岩手国体リハーサル大会の報告
- (9)発言・行動・発信に係る注意事項につ
いて(派遣選手やコーチの行動規範に
係る注意事項について報告。)
- (10)JOCジュニアオリンピックカップ参
加申込み遅れの対応について
- (11)UIAA理事会について
小野寺事務局長より口頭での報告。

3. 指導員・審判員 検定結果報告

A級主任検定員(4/30富士山にて検
定、6/6認定):小山幹(宮城)、町田
幸男(群馬)、中村和義(長野)
以上3名は、異議なく承認された。

4. 後援報告、協賛等の依頼について

- (1)第8回ジャパンユースカップ(日本フ

リークライミング協会)後援名義(交
付済) 異議なく承認された。

5. 専門委員会動静

[報告] 5月(4月29日～6月10日)

- (1)国際委員会
4月12日(火) 出席者8名 委任7名
ア)報告事項
・BMC女性国際クライミングミート
2016(6/12-19) 篠塚優を派遣予定
・カザフスタンUIAAジョイントExp.
ハンテングリ:久松塔、鈴木将太、カー
リータウ:坂上光恵、飯田千枝子、工
藤紀代、鷲山久、幸福真美を派遣予定
・ネパールTIMS(トレッカー管理カー
ド)とルート使用料値上げについて
イ)協議事項
①H28年度総会兼第55回海登研につ
いて(6/11～12 京都府立ゼミナル
ハウス)
②ロシア女性クライミングフェスティ
バルについて(4/11～25)
③国内外に向けてのHP案について
イ)国際委員会
5月10日(火) 出席者8名 委任4名
ア) American Alpine Club Climber's
Meet Yosemite Valley 2016(9/25-
10/2) 締め切りについて
イ) H28年度総会兼第55回海登研の準
備について(6/11～12 京都府立
ゼミナルハウス)
・会議準備と研究会内容の確認及び役割
分担
ウ) ロシア女性クライミングフェスティ
バルの報告と反省について
(3)競技部正副部長・委員長会議
5月20日 出席7名 委任2名
ア) 検討事項
①JOCジュニアオリンピックカップ実
施要項の確認
②公認、認定競技会の公募規程検討
③日体協国体アンケート集約状況
④第30回LJC準備状況
⑤今年度の常任委員の選任について
イ)報告事項
①ユースボルダリング鳥取大会報告
②ユニフォーム契約について
(4)アンチ・ドーピング委員会
5月20日 出席者5名 委任4名
ア)平成27年度事業報告
①ドーピング検査の実施(JADA委託
事業)報告
②NFレップを各競技会に派遣
③TUE(治療的使用に関わる除外措
置)申請の支援
④ADAMS(アンチ・ドーピング管理
システム)登録選手への管理支援
⑤国体監督会議、競技部ブロック別研修
会での啓発・教育の実施報告
イ)平成28年度事業計画
①AD常任委員の更新について
②ドーピング検査実施計画について
日本代表選考競技会で実施(本年7競
技会、内2競技会実施済)
③AD啓発・教育事業について
・競技部ブロック別研修会への派遣
④その他(JADA講習会等)
・アンチ・ドーピング教育活動の講師養
成講習会(6/17、7/23、10/15)
・アンチ・ドーピング定期研修会(6/
10、7/22、10、15、1/18)
(5)自然保護委員会
5月19日 出席18名 欠席1名

ア)報告事項

- ①山岳団体自然環境連絡会
4月27日(於: 芳山) 松隈が参加
「鹿食害の全国規模アピール集会(仮
称)」シンポ開催提案について検討開始。
- ②高校生の自然保護指導員任用の理事会
提案について
イ) 審議事項
①常任研修会の実施について
②第40回自然保護委員総会について
③登山倫理シンポジウム
(5月22日、オリセン国際会議室)
④静岡県ライチョウサポーターズ養成講座
6月26日 NOF新宿南口ビル
(6)指導委員会
5月9日(月) 出席11名 欠席4名
ア) 規約改訂作業について
指導員総会まで28年度版を印刷。
イ) 氷雪技術研修会の報告
(4/29～30、富士山)
ウ) 山岳上級指導員養成講習会(中央開
催)の受講管理の問題について
エ) 指導委員総会について
6/11(土)～12(日) 東京海員会館
実施要綱作成、案内書送付
オ) SC指導員養成講習会・中国プロッ
ク合同開催について
カ) 指導・競技合同会議(日程検討)
5/30 19:00 日山協にて
キ) 夏山リーダー検討会について
5/16(月) 19:00～ 於: 都岳連
(7)ジュニア普及委員会
5月13日(火) 出席3名 委任4名
ア) ジュニア登山教室 in 立山2016について
イ) ジュニア登山教室 in 立山2017について
①施設予約8/17(木)～22(火)の期間で予
約。(第3希望まで提出)
ウ) その他
①中高年安全登山指導者講習会の平成
30年度沖縄県開催について
②全日大会: 京都大会(平成30年)の宿
泊先確保について。
③NPO法人CONE自然体験活動推進
協議会への加入について
(8)医科学委員会
6月5日 出席23名 欠席4名
ア) 諮問委員会答申について
①スポーツクライミングに特化した独自
性の高い事業部等を設けた運営。
②統轄団体の名称の変更について
イ) 競技特性に応じた選手の傷害対策や
体調管理について
ウ) 競技中の医療・救護などを担うしか
るべき体制整備について
エ) 競技の普及・強化を図る医学委員会
と科学委員会の在り方について
オ) オリンピックに向けた選手強化と医
科学について
カ) 当面の医科学委員会の在り方について
(9)財政委員会
6月14日(火) 出席者5名
ア) 予算の精度向上と積算根拠の明確化
について
イ) 財源確保(協賛金・助成金等増)の取
り組みについて
ウ) ガバナンスの確立とコンプライア
ンス遵守の徹底について
エ) 登山部門の充実について
オ) 会長諮問委員会答申への対応と予算
化について
(10)共済委員会 6月14日 出席者5名
ア) 山岳遭難・捜索保険のラインナップ

について
イ) 共済会会員の加入促進キャンペーンについて
ウ) 優待施設の拡充について
エ) 山岳共済会運営委員会メンバーについて
オ) 平成28年度山岳共済会々員の加入状況について 6月15日現在の加入者は、50,386人(団体31,794人、個人18,592人)、前年比で503人増。

6. その他の重要事項

- [報告] (4月29日~6月16日)
(1) 氷雪技術指導員研修会
4月29日(金)~30日(土) 於：富士山5合目 瀧本指導委員長他
(2) ローヴェ・マナスル初登頂60周年記念祝賀会及びNMAに地震見舞金手渡し 4月29日(火)~5月5日(休)
於：ネパール 八木原会長
(3) 第71回岩手国体第1回基準会議
4月30日(土)~5月1日(日)
於：盛岡市 高橋副会長他
(4) マナスル初登頂60周年記念「ザ・マナスル・デー」 5月8日(日) 於：学術総合センター内一橋大学一橋講堂 尾形副会長
(5) 平成28年度第1回理事会
5月14日(土) 於：岸記念体育会館

- 504~505 八木原会長他
(6) 日本ユース選手権ボルダリング競技大会 5月14日(土)~15日(日) 於：鳥取県倉吉市倉吉体育文化会館 國松副会長、小日向委員長他
(7) 日本山岳ガイド協会総会 5月17日(日) 於：弘済会館 八木原会長
(8) JOC国際人養成セミナー開講式 5月20日(金) 於：ナショナルトレーニングセンター 小野寺常務理事、小日向(受講)
(9) 登山倫理シンポジウム 5月22日(日) 於：国立オリンピック記念青少年総合センター 西内常務理事、青山副委員長他
(10) (一財)全国山の日協議会理事会・評議員会 5月25日(火) 於：弘済会館 八木原会長、尾形副会長
(11) 超党派「山の日」議員連盟第18回総会 5月26日(水) 於：衆議院第一議員会館B1第3会議室 尾形副会長
(12) 大阪府山岳連盟創立70周年記念祝賀会 5月28日(土) 於：ヒルトン大阪 國松副会長
(13) 平成28年度定時総会 5月29日(日) 於：岸記念体育会館101~103 八木原会長他
(14) 平成28年度第2回理事会 5月29日

- (日) 於：岸記念体育会館 101~103 八木原会長他
(15) JOC総務委員会総会 5月30日(月) 於：岸記念体育会館体育会館 尾形副会長
(16) 東京都山岳連盟総会 5月31日(火) 於：国立オリンピック記念青少年総合センター 八木原会長
(17) 全国山岳遭難対策協議会幹事会 6月1日(火) 於：文部科学省 中川事務局員
(18) 噴火時等の避難計画の手引き作成委員会 6月2日(水) 於：中央合同庁舎第8号館会議室 尾形副会長
(19) UAA理事會 6月7日(火)~9日(木) 於：中国・成都 八木原会長、小野寺常務理事
(20) 国体競技運営部会 6月9日(休) 於：岸記念体育会館 西原委員長
(21) JADA第1回加盟団体連絡会議 A防止研修会 6月10日(金) 於：ベルサール神田 中川事務局員
(22) 第71回岩手国体第2回基準会議 6月10日(金)~11日(土) 於：岩手県盛岡市 八木原会長、國松・高橋副会長、西原・小日向委員長
(23) 第30回リード・ジャパンカップ(岩手国体リハーサル大会) 6/11(土)~6/12(日) 於：岩手・盛岡市 八木原会長、國松・高橋副会長、西原・小日向委員長
(24) 指導員研修・委員総会 6/11(土)~12(日) 於：東京海員会館 龜山副会長、瀧本委員長
(25) 国際委員総会兼第55回海外登山技術研究会 6/11(土)~12(日) 於：京都ゼミナールハウス 尾形副会長、澤田委員長
(26) JOC/NF総合支援センター第1回研修会 6月14日(火) 於：岸記念体育会館 中川事務局員
(27) 日本ワールドゲームズ協会総会 6月15日(水) 於：日本財団ビル 尾形副会長
(28) 国際スキー山岳連盟総会 6月16日(木)~19日(日) 於：ポルトガル 笹生常任委員

寄贈図書

寄贈本	東京新聞出版部 (株)山と溪谷社 (株)ナカニシヤ出版 (株)山と溪谷社 (株)ネイチュアエンタープライズ (株)山と溪谷社	「イラスト読図」阿部 亮樹 著 「新編 山のミステリー 異界としての山」工藤 隆雄 著 「改訂 新日本山岳誌」日本山岳会編著 「ROCK & SNOW」072 2016 JUN 「岳人」No.829 2016July 「山と溪谷」No.975 「山」1008号 2016年6月 「東京外語大学山岳会報」No.151 2016年初夏号 「スマイルスポーツ」Vol.66 2016June 「健康づくり」2016.6.No.458 「兵庫山岳」第588号 「JBCnews」第535号 「スポーツコミッション沖繩プランナーズガイド 改訂版」 「武術太極拳」No.320 「山岳ぐんま」第107号 「岡山岳連」214号 「山野 CHINA OUTDOOR」2016 06 総214期 「Montagne 360」June 2016 「埼玉岳連」第54号 「フェアプレインニュース/スポーツニュース」6月13日号 「登山時報」2016年7月 No.497 「やまなみ」2016年6月10日 No.221 「創立60周年記念誌」 「なぜ、極地なのか」植村直己が追いつけた世界—2015日本冒険フォーラム報告書 「大山聯」Vol.210 2016 June 「山」No.853 「地域防災」2016.6 No.8 「やまびこ山想会」会報 第165号 「愛知岳連ニュース」平成28年6月21日第418号 「山嶺」No.1036 「草の目木の芽」第122号 「山行手帖」No.679 '16.7 「日本山岳写真協会ニュース」6月号第433号 「山岳文化」2016年 第17号 「山」1009号 2016年7月
雑誌	横浜山岳会 峯本 典寛 (公財)東京都スポーツ文化事業団 (公財)健康・体力づくり事業財団 兵庫山岳連盟 (公財)全日本ボウリング協会 (公財)沖縄県体育協会 (公社)日本武術太極拳連盟 群馬山岳連盟 岡山山岳連盟 中国登山協会 La rivista del Club alpino italiano 埼玉県山岳連盟 (公財)日本体育協会 日本勤労者山岳連盟 長野山岳協会 宮城県高等学校体育連盟登山専門部 豊岡市立植村直己冒険館	
会報	Korean Alpine Federation (公社)日本山岳会 (一財)日本防火・防災協会 やまびこ山想会 愛知県山岳連盟 東京野歩路会 (公社)日本山岳会 自然保護委員会 おいらく山岳会 日本山岳写真協会 日本山岳文化学会 横浜山岳会	

編集後記

リオ五輪開幕まで1カ月を切り、話題も多くなりリオが近くに感じられる。参加選手の活躍を期待してTV観戦での応援となるが寝不足が心配だ。又、新たな祝日「山の日」のイベントもあり、忙しい夏を迎えるにあたり体調管理に十分留意したい。(広報担当 水島彰治)

登山月報 第568号

定価 110円(送料別)
予約年間 1,300円(送料共)
昭和45年12月12日
第三種郵便物認可
(毎月1回15日発行)
発行日 平成28年7月15日
発行者 東京都渋谷区神南1-1-1
岸記念体育会館内
公益社団法人日本山岳協会
電話 03-3481-2396
FAX 03-3481-2395

NPO法人 北丹沢山岳センター

事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1
TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980
E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

蛭ヶ岳山荘 TEL:090-2252-3203(衛星電話)

神の川ヒュッテ TEL:042-787-2276

和時「時の茶屋」TEL:042-687-2882

理事長・代表 杉本憲昭

NPO法人 北丹沢山岳センター

神奈川県・山梨県東部トレイルラン連絡協議会

事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1
TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980
E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

- 北丹沢12時間山岳耐久レース実行委員会
- 陣馬山トレイルレース実行委員会
- 八重山トレイルレース実行委員会
- 東丹沢宮ヶ瀬トレイルレース実行委員会
- 上野原秋山トレイルレース実行委員会
- 南高尾城山陣馬サンセットトレイルレース実行委員会
- 峰山トレイルレース実行委員会

大会々長 杉本憲昭

熊本地震のお見舞いと義援募金へのご協力について（お願い）

去る4月14日の前震から始まった熊本県を中心とした群発地震で、甚大な被害を蒙られた被災者の皆様に心よりお見舞いを申し上げます。

私たち全国の山仲間は、皆様の安全を祈念しつつ、この困難な状況を一刻も早く改善する復興活動に出来る限りの協力をしたいと考えております。

本協会では、被災地の復興と被災者の救援のための義援金を呼びかけることに致しました。是非、皆様のご協力をお願いします。募金は個人、団体を問いません。

公益社団法人 日本山岳協会 会長 八木原 罔明

【義援募金送金方法】

- ①銀行振込み みずほ銀行 渋谷支店
口座番号 普通預金 3382501
口座名 シヤ)ニホンサンガクキョウカイ
- ②郵便振替 口座記号番号 00110-5-546693
加入者名 公益社団法人 日本山岳協会
※通信欄に「地震義援募金」と記入して下さい。
- ③現金書留 「(公社)日本山岳協会」宛
〒150-8050 東京都渋谷区神南1-1-1
岸記念体育会館内 電話：03-3481-2396

※お名前、金額などを日本山岳協会の機関誌『登山月報』に掲載しますので、匿名を希望される方は、「匿名希望」と明記して下さい。

※5,000円以上のお振込の方で、ご希望の方には税額控除証明書を発行致します。通信欄に「税額控除希望」と記入して下さい。

立ちどまらない保険。

MS&AD

三井住友海上

わたしの
ゴール
キーパー。

GK



クルマの保険



住まいの保険



先 竹カの保険

www.ms-ins.com

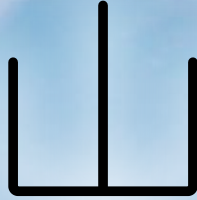
JMA

守ります。美しい日本の山。

祝

8
月
11
日

(2016年より)



国民の祝日

山岳保険は

日本山岳協会 山岳共済会

<http://sangakukyousai.com>

〒170-0013 東京都豊島区東池袋3-7-11-707

TEL:03-5958-3396 FAX:03-5958-3397

E-mail:sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

月～金 10:00～17:00(祝日除く)

Webからも申込みます